

社会貢献

IPMU 機構長

村山 斉 むらやま・ひとし

初めての人に会ったときにいつも怖い質問が二つあります。まずは、「物理をやっているんですか？ 高校で大っ嫌いだったんですよ。なんでそんなものに人生賭けるんですか？」この質問は何とか答えられると思います。物理の研究はとても人間的な営みで、競争、協力、興奮と運のドラマだと説明します。すると次のもっと難しい質問が来ます。「それで何億円も使うんですか？ それで一体何の役に立つんですか？」

直接は役に立ちません。人類は何千年もの間宇宙の神秘に思いを馳せてきましたが、お金持ちになるためでも健康になるためでもなく、純粋な知的好奇心でした。しかしこうした営みは社会の中で大事な価値があると思います。自然界の中での私たちの位置について新たな視点をもたらし、ひいては人生哲学にもつながります。知的に豊かになり、自分自身を理解するのにも役立つでしょう。

時にはもっとはっきり見える形で役に立つこともあります。ウェブは研究者がデータを共有するために考えだされたものですが、今や何百兆円のビジネスです。基礎研究の為に生み出されたテクノロジーで日頃の生活の役に立っているものは、例えばDVDに使われるレーザー、MRIに不可欠の超伝導磁石、放射線治療に使う素粒子加速器等があります。今後も最先端の研究の副産物として様々な応用が生まれていくに違いありません。

そして、IPMUでは研究で分かってきたことをサポートしていただいた一般の方へ報告していくことを心がけています。今までに行った一般講演は大変好評で、毎回事前申し込みは一杯になりました。既に1200人

以上の方に来ていただき、一般の方々が「知的な豊かさ」を求めていることの証にもなりました。このニュースレターも私たちの努力の一環です。楽しんでいただければ幸いです。高校生のためのスクールも開催予定です。このような私たちの研究とアウトリーチの努力で若い頭脳が刺激を受け、科学、数学、工学を学んでくれることを願い、科学の「磁石」となっていきたいと思っています。

